

# 病害虫情報(第1号)4月予報

令和3年3月30日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 4月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、コムギ、カンキツ、ナシ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ】
- II 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
  - 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和3年3月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 4月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種籾1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシンガレ センチュウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等
苗立枯病	—	○	(予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### 【コムギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
赤かび病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [14日,3回(出穂期以降は2回)] 1,000~1,500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [21日,3回(出穂期以降は1回)] 1,000~2,000倍 等
			❖ 出穂期以降の高温および降雨が続いたり、日照時間が少ないなどの多湿条件で感染しやすい。 ❖ 効果的な薬剤散布は、「開花始め~開花期」と「開花期の7日後」の2回散布。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(R3・No.1)

…………… 神奈川県農業技術センター

## 【カンキツ】 生育:早(足柄地区事務所研究課:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
そうか病	やや多	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 (予) デランフロアブル [30日,3回] 1,000倍 等 ◆ 前年発生したほ場では、新芽が出揃った4月上中旬に必ず散布する。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-]2,000倍 +クレフノン[-,-]200倍 (予) ICボルドー66D [-,-] 25~200倍 + アビオン-E [-,-] 500~2,000倍 (予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 等 ◆ 3月中下旬に農薬散布していない場合は、4月上中旬に防除する。 ◆ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	やや多	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ◆ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ナシ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
赤星病	—	○	【開花前】 (予・治) インダーフロアブル [7日,3回] 黒星病:5,000~12,000倍、 赤星病:8,000~12,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 黒星病:1,500倍 【落花期】
黒星病	並	○	(予) トレノックスフロアブル[30日,5回]500倍 (予・治) スコア顆粒水和剤[14日,3回]2,000~4,000倍 等 ◆ 黒星病の花そう基部発病部は、見つけ次第取り除く。
アブラムシ類	—	○	ダイアジノン水和剤34 [14日,6回]1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## 【ウメ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病	—	○	(予・治) マイコシールド [21日,4回] 1,500倍 等 ❖ 強風雨時に感染するので、多発園では降雨前の散布を心掛ける。
黒星病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [30日,3回] 2,000倍 (予・治) ストロビードライフロアブル [7日,3回] 2,000～3,000倍 等
カメムシ類	並	△	アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回]アブラムシ類:2,000～3,000倍、 カメムシ類:2,000倍
アブラムシ類	—	○	マブリック水和剤20 [21日,2回]アブラムシ類:4,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤[前日,3回]2,000倍 等 ❖ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【チャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	多	◎	バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 等 ❖ 3月に上記薬剤を散布しなかったほ場では防除すること。
ツマグロアオカスミカメ	—	△	<b>【4月上中旬】</b> キラップフロアブル [7日,1回] 2,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [7日,1回] 5,000倍 等 ❖ 例年多発するほ場では防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖ 防除のポイント												
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日												
葉かび病	—	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 灰色かび病、葉かび病 [前日,3回] 2,000～3,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病:300～600倍												
			等												
			❖ 発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ❖ 灰色かび病対策には、葉先の枯れた部位や花がらをこまめに取り除くとともに、換気等により施設内の湿度低下に努める。また、不要な下葉は整理し、風通しをよくする。												
コナジラミ類			ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍												
タバココナジラミ	やや少	○	マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍												
アザミウマ類	やや少	○	ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍												
			コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類:300倍												
			等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:コルト(セイウオオマルハナバチ:3日、クロマルハナバチ:7日)、ディアナ(1日)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(R3・No.1)

…………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [前日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ゴーベック エニベル [前日,2回] 750倍 ☞ ゴーベック エニベルは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400～800倍 等 ◆ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。										
うどんこ病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日,3回] 3,000～4,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等										
灰色かび病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 灰色かび病:1,000～2,000倍										
菌核病	—	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 等										
アブラムシ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000～3,000倍 アザミウマ類:2,000倍										
コナジラミ類			ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍										
オンシツコナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回]										
タバココナジラミ	やや少	○	アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍										
アザミウマ類			モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回]										
ミナミキイロ アザミウマ	やや少	○	コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍										
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(R3・No.1)

…………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000～1,500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期), 5回] 2,000倍 等 ◆ 発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
うどんこ病	やや少	○	(予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期), 5回] 2,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 等 ◆ 適宜、古葉を除去し、風通しを良くする。
アブラムシ類	やや少	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 等
コナジラミ類			
オンシツコナジラミ	やや少	○	
タバココナジラミ	やや少	○	
アザミウマ類	やや少	○	ディアナSC [前日, 2回] 2,500～5,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] 4,000倍 グレーシア乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 等 ◆ グレーシア乳剤は天敵への影響が大きく、注意が必要。
ハダニ類	並	○	コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ディアナ(3日)、コロマイト(1日)、グレーシア(1日)

### タフパールと上記掲載剤の散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ サンクリスタル、チェス(水和剤)、カスケード、コロマイト、粘着くん:混用事例あり
- セイビアー、カリグリーン:3日以上
- ベルコート(水和剤):10日以上
- (参考)展着剤アグラー、ダイコート、ニーズ:1日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1~2g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロツン粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 または ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 <b>【定植時:粒剤施用】</b> モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍 ミカンキイロアザミウマ:1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍												
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント										
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロツク粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 または ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2~20Lに希釈/400株 コナジラミ類、アザミウマ類 :原液25mlを10~20Lに希釈/400株 <b>【定植時:粒剤施用】</b> アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1~2g/株:植穴又は株元土壌混和 コナジラミ類:2g/株:植穴土壌混和 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5~1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000~2,000倍 マッチ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍										
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略



# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 または ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 <b>【定植時:粒剤施用】</b> ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【春キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
菌核病 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	並 並	○ ○	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 1,000倍 (予・治) シグナムWDG [7日,2回] 1,500倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。
コナガ 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	並 並	○ ○	エスマルクDF [発生初期(但し、前日),-] 1,000~2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] 2,500~5,000倍 グレーシア乳剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍
アブラムシ類 【横浜・藤沢地区】 【三浦半島地区】	やや多 やや多	○ ○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000~4,000倍 アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤[3日,2回]2,000~3,000倍 モスピラン顆粒水溶剤[7日,5回]2,000~4,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

## II 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 4月の気象予報(気象庁 3月24日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	30%	40%	30%

\*3月25日発表1か月予報による。

### (2) 4月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	そうか病	—	やや多	1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	やや多	1) 県予察ほ(根府川)では、春枝の越冬病斑の発生が平年より多い。(+) 2) 前年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
ナシ	黒星病	少	並	1) 前年9月の巡回調査では、徒長枝の発病は見られず発生は平年よりやや少なく、短果枝での発病も見られず発生は少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	並	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(根府川)のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年並。(±) 3) カンキツ枝の叩き出し調査におけるツヤアオカメムシ越冬成虫数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
チャ	カンザワハダニ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(+) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
春キャベツ (横浜・藤沢)	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(R3・No.1)

..... 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ウ メ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー)
    - 単剤あるいはその他殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、バトファイター)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(サブローール、スコア、トリフミン)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(バンチヨ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回